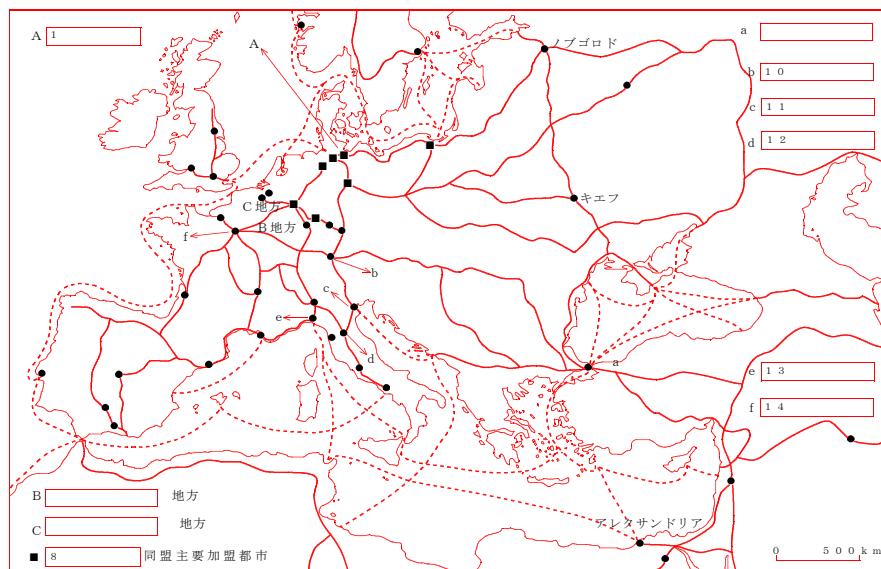
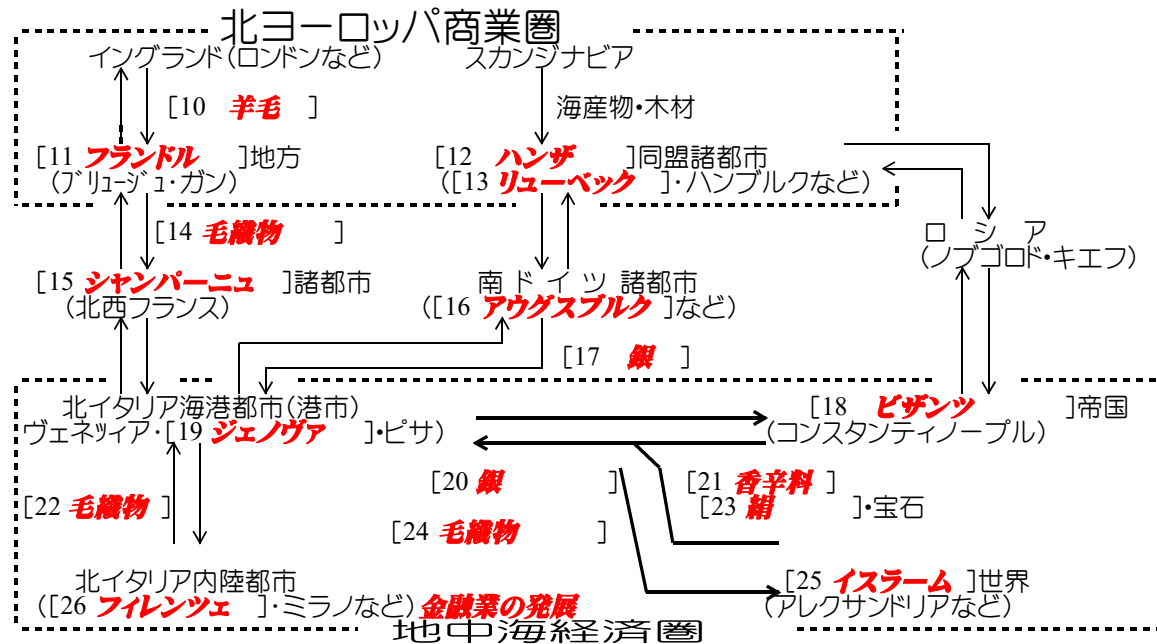


第6章 3. 中世世界の変容 b, 商業の復活

封建社会が安定し農業生産力が増すと、人々は[1 余剰生産物]の交換を活発化、[2 商業]が復活、[3 貨幣]経済も発展した。また定期市はしだいに[4 都市]へと発展、商人や荘園内にいた[5 手工業者]たちも都市に集まっていった。さらに[6 十字軍]の影響で交通が発達、都市同士を結ぶ[7 遠隔地]交易が発展した。11～12世紀におけるこうした都市や商業の発展を[8 「商業の復活」]（「商業ルネサンス」）という。

①遠隔地交易の発展←[9 十字軍]の遠征などの影響

西ヨーロッパ全体を結合する流通網の形成



中世都市と交通路

※ポイント
中世後期の経済の中心

・[27 東方]貿易の拠点
＝北イタリア

・銀鉱山＝南ドイツ

・毛織物業の中心＝
[28 フランドル]地方

・南北の経済の接点＝
[29 シャンパーニュ]地方

・北方経済を握る＝
[30 ハンザ]同盟

c, 中世都市の成立

①都市…重要な[31 教会](司教座教会など)のある都市などがもとになって成立

→11から12世紀以降、領主との対抗上[32 皇帝]や国王から[33 特許状]を得て自治権獲得
＝[34 自治]都市成立

→皇帝・王＝[35 諸侯]の力をおさえるために[36 都市]の協力を得る。

②自治都市の類型

北イタリア…領主を倒し自治都市(コムーネ)として完全な[37 独立国]となる。

周囲の農村を含めた[38 都市共和国]型。[39 都市貴族]が指導者。

ドイツ…皇帝に直属し、[40 自由都市](帝国都市)として[41 諸侯]と同様の地位を得る。

城壁内部のみを支配。

③都市同盟…[42 ハンザ]同盟(北ドイツ)、[43 ロンバルディア]同盟(北イタリア)

諸侯らとの対抗上、都市同士が同盟を結ぶ

ハンザ同盟…中世、[44 北ドイツ]に成立した都市同盟。[45 リューベック]市を盟主とし共同の軍隊もち、[46 北ヨーロッパ]商業圏を支配し、政治的にも大きな勢力を維持した。

④イギリスやフランスなど…[47 国王]と結び、その国内市場統一に協力

都市は、はじめ封建領主の保護を受けていたが、11～12世紀以降、[48 諸侯]の力を抑えようとする[49 皇帝]や国王から[50 特許状]をえて[51 自治]都市となっていた。北イタリアでは周囲の農村を含めた[52 都市共和国]の形をとったのにたいし、ドイツでは城壁に守られた内側だけを領地とし有力都市は[53 皇帝]に直属して諸侯と同じ地位に立つ[54 自由都市]の形をとっていた。都市は共同の利害を守るため[55 都市同盟]を結成した。北ドイツの[56 ハンザ]同盟や北イタリアの[57 ロンバルディア]同盟などが有名である。

⑤都市の運営…[58 ギルド]とよばれる[59 同業者組合]がなる。

当初は[60 遠隔地交易]を担う大商人中心の[61 商人]ギルド

↓
手工業者ら、職種別に[62 同職]ギルド(ツunft)結成

→[63 ツunft]闘争＝商人ギルドと争い、市政参加をすすめる

都市は[64 ギルド]によって管理され、当初は[65 大商人]を中心とする[66 商人ギルド]が実権を握っていた。これに不満を持った[67 手工業]者たちは職種ごとに[68 同職]ギルド(ツunft)をつくって分離し、[69 市政への参加]を求めるようになっていった。この争いをドイツでは[70 ツunft]闘争という。

⑥[71 ギルド]の構造

同職ギルド([72 ツunft])…中世ヨーロッパの都市における同業者組合。独立した手工業経営者である[73 親方]の[74 共存共栄]を目的とし、業者の数、製造販売の方法、品質などをきめ[75 経営]の安定と技術の保護をはかった。業者同士の対立やともだおれを防ぎ技術レベルを維持できたが、[76 自由競争]を排除し[77 非組合員]の活動を禁止したため、[78 経済や技術の自由な発達]を妨げるようになる。